

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。よろしくお願いします。

以下、通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

質問1、新駅押上駅、糸魚川駅周辺整備と鉄道を生かした広域連携について。

- (1) えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン「えちご押上ひすい海岸駅」が開業して1年となります。開業前より検討されていた地元住民や高校と連携したまちづくり、通勤・通学利用者の利便性などについて、伺います。
- (2) 糸魚川ジオステーションジオパルに設置されている鉄道ジオラマ、鉄道車両、レプリカ車両、様々な鉄道資料の活用について、伺います。
- (3) 今後の鉄道需要の掘り起こしには、糸魚川が鉄道ファンの目的地となり、必ず行かなければいけない巡礼地となることが大切ですが、それにはどうしたらよいか、糸魚川市に戦略と実践はありますか、伺います。
- (4) 県内の新型コロナウイルス感染症の収束状況を見てとなりますが、今年やれることとして、10月の鉄道の日をめぐりに新津、直江津、糸魚川が連携して、鉄道イベントを開催してはいかがでしょうか、伺います。
- (5) 報道にもあるように、地方鉄道の多くが廃線を検討しなければいけないとされる時代になり、もしそれがまかり通れば、新幹線がたまに止まる駅を数十億円もかけて糸魚川市は整備したこととなりますが、到底市民の理解は得られません。納得できるものではありません。  
私からは、東京から2時間の新幹線駅に、えちごトキめき鉄道、富山あいの風鉄道、大糸線が乗り入れるメリットを生かしたまちづくりを進めること、鉄道事業者、県、国に鉄道存続をさらに働きかけることを、この場より訴えたいと思います。米田市長のお考えを伺います。

質問2、「翠（みどり）の交流都市」糸魚川市の様々な都市交流事業の現状と課題について。

- (1) 姉妹都市塩尻市との都市交流事業の現状と課題について、市民・文化交流、観光・経済交流をどのようにされるか、伺います。
- (2) カチューシャの唄をご縁とする知音都市の中野市、長野市、浜田市及び早稲田大学との都市交流事業の現状と課題について、市民・文化交流、観光・経済交流をどのようにされるか、伺います。
- (3) 「翠（みどり）の交流都市」を標榜する糸魚川市では、ジオパークの各都市との交流、古事記の神話でつながる出雲と諏訪との交流、地名押上でつながる墨田区との交流など、行政が進めるもの、市民団体が進めるもの、地域が進めるものなど活発に交流事業が行われていますが、コロナ禍で対面交流ができないことによる、交流へのモチベーション低下が課題となっていると考えます。これを乗り越え、交流機運の醸成を図るための対応について、伺い

ます。

質問3、「ブラタモリ」から学ぶ、糸魚川の魅力の伝え方と生かし方について。

- (1) NHKの番組「ブラタモリ」糸魚川編の放送の反響について伺います。
- (2) 「ブラタモリ」から私たちが学んだことは、糸魚川の魅力の伝え方として、面白く、分かりやすく伝える工夫の大切さだったと思います。今後、糸魚川の地質・地形、自然、歴史、文化を伝えていく上でよい経験としたいと考えますが、その点について伺います。
- (3) 「ブラタモリ」糸魚川編第1回でのフォッサマグナと糸魚川・静岡構造線の解説がよいとインターネット上でも評判です。タモリさんの解説、通称「諏訪解説」を糸魚川市のまちづくり、人づくり、情報発信に役立ててはいかがでしょうか。また、第2回での親不知と塩の道の解説がよいと市民からの声を頂きました。糸魚川市の教育テキストとして活用できないか、伺います。
- (4) 12月定例会の一般質問で、私からぜひ3回目の放送をと要望し、今後放送局に働きかけていくとご回答いただきましたが、その後いかがですか。

第3回「ブラタモリ」糸魚川編のコンテンツとしては、鉄道と相馬御風先生を取り上げてほしいと熱望いたしますがいかがですか、伺います。

- (5) 現在新型コロナウイルス感染症が心配ですが、新潟県内や隣接県の富山、長野からのマイクツーリズムとして「糸魚川ブラタモリツアー」を積極的に進めるべきと考えますがいかがですか、伺います。

質問4、にぎわいの拠点・子育て支援複合施設の構想、計画、建設、運営について。

- (1) 12月定例会の一般質問で、子育て施設を中心に、小規模コンビニエンスストア、規制の緩い図書館機能、若い移住者や近隣高齢者が使う温浴施設やランドリーカフェなどを併設し、複合的な機能によって、多世代の市民が市内各所から訪れ、利用する施設を提案させていただきました。

その後、ご検討いただけましたか、伺います。

- (2) 糸魚川市においては、少子高齢化時代と人口減による財政縮小に対応した公（おおやけ）の施設建設となるよう、にぎわいの拠点・子育て支援複合施設の基本設計、実施設計、建設工事発注方法、施設運営方式には、十分な検証が必要と考えます。

以下の点について、伺います。

- ① にぎわいの拠点・子育て支援複合施設全体の運営は、指定管理者制度による運営をお考えでしょうか。それともそれ以外のPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）の手法をお考えでしょうか。糸魚川市の方針について、伺います。
- ② 市民要望があり設置する子育て支援複合施設部分の、用途別の部屋の広さ、利用時間、利用人数予定数については、どのようにして決定されますか、伺います。また、必要となる職員数と、運営に係る費用は幾らになり、その財源はどのようになりますか、伺います。
- ③ 子育て支援複合施設部分の運営には、民間ノウハウを生かすということで指定管理者制度とすると聞いていますが、公民連携の先進地では同様の施設を公営としているところがあります。どちらがよいか、糸魚川市の方針について、改めて伺います。

なお、質問4は、通告書で、「にぎわいの拠点・子育て支援センター」となっているところを、

「にぎわいの拠点・子育て支援複合施設」と変更しています。これは、子育て支援センターとした場合には、現在のやまのい保育園にある部分に限定されると、担当課より指摘があり、それでは質問の趣旨に合わないことから、変更させていただきましたので、よろしくお願いします。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、地元の皆様と話し合いを進めております。

2点目につきましては、鉄道ファンが集まる場所として、様々な取組を行っているところであり、今後とも、鉄道ファンのみならず、来訪者から楽しんでいただける場所として誘客に努めてまいります。

3点目につきましては、市内の様々な鉄道資産を活用した取組や大糸線応援隊員の協力を得ながら、鉄道ファンの獲得に努めてまいります。

4点目につきましては、様々な楽しみ方のある鉄道の魅力を生かす取組は必要であると考えております。

5点目につきましては、県と連携した鉄道事業者への働きかけや、地方鉄道の維持に向けた国への支援を要望してまいります。

2番目につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での活動ができない状況となっております。

終息後は、これまでどおり、姉妹都市や知音都市などとは、市民団体や市民レベルでの交流を、またジオパークネットワークや神がたりネットワークでは、観光交流を中心として進めていきたいと考えております。

当面の交流方法といたしましては、オンラインの活用も有効であると考えております。

3番目の1点目につきましては、様々な方から多くの感想を伺っており、反響の大きさを実感しております。

2点目につきましては、今後も、糸魚川の魅力ある多様性を分かりやすく伝えてまいります。

3点目につきましては、「諏訪解説」とされているものは、フォッサマグナミュージアムでのホームページで紹介しております。

親不知や塩の道については、「糸魚川世界ジオパークまるごと糸魚川資料集」や小学校の副読本に掲載されておりますが、改訂の際に解説した内容を取り入れるか検討してまいります。

4点目につきましては、担当されたディレクターにお願いいたしているところであります。

5点目につきましては、現在、観光協会において、新たなツアーの実施に向けて検討しているとお聞きいたしております。

4番目の1点目につきましては、新しい機能の導入の可能性を踏まえ、民間事業者の意向を把握しながら、基本計画の策定を進めております。

2点目の1つ目と3つ目につきましては、できる限り民間事業者が運営可能な事業手法を検討してまいります。

2つ目につきましては、やまのい保育園内の子育て支援センター移設を考慮しており、支援センターを含めた施設規模等は、今後検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

2回目の質問は、順番を変えて、にぎわいの拠 punti 子育て支援複合施設についてからお願いします。まず、行政運営の基本的なことを米田市長に伺って、質問を続けたいと思います。

全国の自治体が、公の施設の維持管理に苦慮し、また工夫しています。糸魚川は、1人当たりの公の施設の面積や維持費は、全国平均に比べていかがですか、伺います。

あわせて、糸魚川市が公の施設を建設する場合に、建設費は当然、建設費の数倍かかると言われる維持管理費も抑える計画とすべきと私は考えます。この点、市長の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘いただきました面積とか数量とか、いろいろあろうかと思ひます。そういった基準で施設を建設したり設置することも必要かと思ひますが、しかし、この日本の全国の都市においては、人口規模や、また地形的な、また地理的な状況がかなり違っておる部分がございますので、その都市その都市に必要な施設、また、近隣の都市の状況もあつたりして、やはり糸魚川みたいな周りに大きな都市がないところについては、他市の都市とは違つた施設も、また必要になってくるのではないかなど。そのように糸魚川に必要なものというふうな考え方の中で、私は施設整備に考えておる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

私から指摘するまでもなく、にぎわいの拠 punti 子育て支援複合施設は、財政縮小に対応した公の施設の計画となるような十分な検証が必要と思ひます。

あくまで一般論ですが、国の支援などを当てにして、工事費を上乗せした箱物建設において、客観性に乏しいニーズの調査を基とし、費用対効果のシミュレーションをつくらぬ検証で、採算性と持続性の検討が不十分なまま建設し、さらに公の資金を当てにした経営計画と直接議会からチェックされぬ運営体制を取つてしまうとすれば、それは問題です。そうなつてはいけません。あく

まで一般論においてですが、私は心配しています。この点、市長の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり行政にとっても経営的な感覚が必要でございまして、やはり市民の負担にならない、将来においても負担にならない施設にしていかななくてはいけないわけでありますので、そういった財政運営、やはり時代時代によって変化する、そういったところの中で、考え方もどのように変わっていくか、非常に最近の時代の流れ、経済の流れというのは、変更が早い部分がございますので、そういったところをいろいろ勘案しながら、将来において必要な施設となっていくようなものにしていきたいと考えている次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

12月議会、にぎわいの拠点子育て支援複合施設の計画についてのこども課長の答弁は、近いところで天候の悪いときに遊ぶ場所が欲しいという子育て世代の要望を行政課題とし、解決していくためのものだ。上越市にある施設は、NPOが管理運営し、評判もいいので、機能と運営について意見を伺いながら検討している。

また、都市政策課長の答弁は、地元の方からは、そういう施設を造るなら地元や高齢の方が関わられる仕組みも考えてもらいという意見があり、それらを考慮して、基本計画案をまとめていきたいとのことでした。その後、どういう形で具体化しているか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

12月以降ですが、これまでの懇談におけるご意見やご要望を踏まえまして、まず、プレールームの拡充ですとか、駐車場を増やすために事業敷地として旧東北電力ビルを解体して計画していくこと、また、妊産婦への支援窓口機能を追加すること、市民の皆様からお寄せいただいた意見、今ほど言われたような多世代の利用ですとか、商業などの新しい機能の導入の可能性、これらを検討してまいります。これら3点を踏まえまして、民間事業者の参入意向を把握しながら、今、整備手法というものも併せて検討して、作業を進めております。

現在は、基本計画の策定におきまして、公民連携（PPP）の実績があったり、子育て関連施設の運営実績がある民間事業者にURのほうからも協力いただき、お話を伺っておる最中でございます。

また、頂いたご意見の中で、行政的な機能に関しましては、庁内で、まずはその取扱いを検討してるところでございます。これらを整理いたしまして、整備手法と併せまして、基本計画の素案をつくってまいりたいというふうに今作業を進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そういった中で、市が考える子育て支援施設の運営については、様々な先進事例を調査していると聞いています。どこを参考としましたか。

また、糸魚川での施設運営をしていく上でのメリット・デメリットを検証されたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

運営方式につきましては、幾つかの方式が考えられるというふうに思っています。どこを参考にするというわけではないですが、先ほどお話のあった、近隣では、上越市のオーレンプラザにあるこどもセンターは、NPO法人が委託を受けて運用をしております。以前、そこの代表とも、私、お話をさせてもらいましたが、子育て支援に非常に思いのある方で、利用者との関係も非常によい距離感だというふうに感じておりましたし、そういった運営が、利用者の、また利用したいという気持ちを湧き起こすんじゃないかなというふうに感じてきたところであります。

当市においても、民間での運営が可能であれば、検討していきたいというふうに考えておりますし、屋内遊技場、子育て支援センター、一時預かりなど、3つの機能の運営を担う事業者や団体があるかどうかというのが、非常に重要になってくるというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

既に子育て世代からの聞き取り調査を何度も行い、様々な条件が整理されて、パブリックな設計基準、運営計画によって、子育て支援複合施設のうち、子育て支援部分の基本計画案はできているはずですが。用途別の部屋の広さ、利用時間、利用人数、予定数を教えてください。

また、運営に必要な職員数、運営費用は幾らか、その財源はどうか、併せて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほどの都市政策課長の答弁のとおり、まだ施設規模等は検討段階であります。懇談会で、案としてお示ししたものは、屋内遊技場が300平方メートル、子育て支援センターが75平方メートル

ルであります。

利用時間というご質問なんですけれども、現在、子育て支援センターは、9時から午後3時30分までですけれども、当然、屋内遊戯施設も含めまして、夕方、それ以降の時間帯まで開設する必要があると、今現在段階では考えています。

職員数につきましては、今現在、支援センターは2人の職員が常駐しておりまして、それに加えて屋内遊技施設等の管理、一時預かりを担う職員が必要となってまいりますので、それも施設規模によって異なってまいりますので、職員数や運営費用は、まだ固まっていない段階にあります。

財源につきましては、今現在も子育て支援センターと一時預かりに関しましては、国や県から運営経費の3分の2の交付金が充当されておりますので、それを見込めるというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

それらの詳細が、地元住民被災者や議会に示されるのは、いつですか。

またその際、出された意見が計画に反映されてこそ、基本計画の完成であり、その後で基本設計、実施設計へと進んでいくと思いますが、そのプロセスについて、確認のために伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

子育ての関連の施設だけ見ますと、そういう議論もできるのですが、先ほど私、答弁しましたように、それに地元なり市民の皆様から要望いただいております新たな機能を付け足そうとしますと、やはりトータルで考えなければならぬ事柄だというふうに思っております。

その際に、新しい機能のほうにつきましては、民間の参入というところも意図しておりますので、そういうのをトータルで考えていきまして、計画の素案をつくっていく必要がございますので、今の予定ですと、ちょっと新年度にずれ込む可能性が高うございます。

ただ、前回も私、答弁した覚えがあるのですが、皆様から頂いたご意見を市がどう判断したか、民間事業者からどういう意見を頂いたかという、素案の決定のプロセスに関しましては、また市民の皆様、議会の皆様に説明をした上で、田原議員おっしゃるような次のステップに移ってまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

参考となる他市の事例を2つ申し上げます。

1つは、公民連携（PPP）の先進地と言われる岩手県紫波町オガールの子育て応援センター「しわっせ」です。しわっせの機能は、就学前の子供を対象とした子育て支援事業、一時預かり保育、放課後児童クラブの3つの子育てを応援し、育児相談にも対応しています。規模は、プレーズーンが162平米、一時預かり保育室が57平米、放課後児童クラブが173平米で、合計面積は400平米弱です。

その規模の根拠もですが、「しわっせ」の運営方法を検証してほしいと思います。なぜならば、PPPの先進地であれば、運営も民間主導でとなると私は考えましたが、「しわっせ」は、町の直営です。その理由を知って、糸魚川の施設の運営を考えたいので議会に示してほしいが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

オガールのほうの件ですが、まず、糸魚川市としましては、先ほど申しましたが、民間事業者との意見交換というものを通じて、様々な事業手法が、同じ公民連携にしてもいろんな形態があるということは聞いております。

ただ、その中に意見としては、子育て支援施設だけの機能で、子育て関連だけで民間が運営するのはちょっと厳しいのじゃないかという意見も、ちらほら頂いておるところです。

今、議員ご質問の、なぜ直営になったのかということにつきましては、いい事例かとも思いますので、また事情をお聞かせいただくなり調査するなりして、私どもの計画にフィードバックしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

もう一か所参考としたいのが、塩尻市の公の施設、交流センター「えんてらす」です。子供を中心に人と人がつながる施設をコンセプトとする支所、公民館、子育て支援センター、安心サポートルーム、図書館、交流スペースの複合施設です。子育て部分の面積は、246平米とコンパクトですが、イベントのときは広い会議室や交流スペースをシェアして、多目的に使える設計となっているようです。また図書館は、事務室を含んで288平米とコンパクトですが、子供向けの図書や歴史・文化を紹介する図書も充実しています。

交流センター「えんてらす」は、来館者も多いということで、塩尻市の親しい議員から頂いた資料によると、開館して1年間で14万人の利用者があり、そのうち図書館利用が5割を占める。地域に密着した施設でありながら、市外からの来館者も多いということで、糸魚川の施設をにぎわいの拠点として考える上で参考になると思います。そして、ここにある子育て支援センターと安心サ

ポートルームの運営方式は、市直営です。

なぜ指定管理とせずに直営としたのか。その理由を知って、糸魚川の施設の運営を考えたいので、議会に示してほしいのですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

先ほどの繰り返しになってしまうのですが、やはりあえてじゃあそういう公民連携の先進地が直営を選択した理由、前向きな理由なのか後ろ向きな理由なのか、そういうところも含めて、私どもも調査を進めて、皆さんのほうにまた提示してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

12月議会の私の一般質問で、小規模コンビニ、図書館機能、温浴施設などを併設した複合的な機能の施設建設を提案しました。その後、計画敷地も当初の約860平米から、約1,500平米に拡大されると聞きました。当初の計画よりも、駅北のにぎわいづくりに資する施設を計画できるようになったと認識していますが、その後、サウンディングは進んでいますか。また、被災者、地元住民からの要望は、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今の現在の作業状況ですが、先ほどの繰り返しになります、子育て支援管理の運営実績のある民間事業者のほうから、サウンディングに臨んでいくための今準備として、聞き取りを行っておるところでございます。これは、民間事業者の求めるレベルですとか、規模感とかそういう、大体民間の思う概要みたいのを事前に把握した後に、本格的にサウンディングに臨んでいきたいというふうに関心を持って、聞き取りをしております。

また、これまでの懇談の中では、地元の皆様のほうからは、高齢者がお茶飲み話もできる場所ですとか、温浴施設、ランドリーカフェ、コンビニエンスストア、高齢者支え合いセンターなどのご意見を頂いております。これらにつきましても、民間事業者の参入と併せまして、基本設計の素案としてまとめてまいります。

サウンディングの前の聞き取りの状況につきましては、少し公平性の観点もございまして、何社、具体的にどういふところというのは、今この場では控えたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

災害からの復興の施設だという基本を忘れないでいただきたい。お願いします。

これまで何度も申し上げてきましたが、図書館機能は必要です。市民からの要望もあります。確かに市の立地適正化計画では、図書館施設を1,500平米としています。

しかし、この先の財政を考えれば、1,500平米の図書館を造るとしたら、今ある3か所を1か所に集約することも考えなければいけません。なので、面積は小さくとも、ほかの図書館にはない機能を備えた子育て部分とのバランスを考えた規模の図書館機能のスペースをつくることを改めて私から提案・要望いたしますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

来年度から、図書館の在り方については検討する予定としておりますので、その中で、併せてスペースという形の中で考えていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

それは1か所に集約するということですか。それとも、今あるものも生かして、全体の中で考えるということですか。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

在り方ということを検討させていただく予定ですので、まだ1か所にするとか、スペースを広げるとか、そこの辺を含めた中で検討していきたいということでございます。おっしゃったように、図書館ということになりますと、ある程度の規模というのが必要となりますが、ご提案いただいたようなスペースということであれば、また別の考え方もできると思いますので、在り方の中で、併せて考えていきたいということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

図書館を造るなら、糸魚川の特徴があるものにすべきだとの市民の声を聴いています。その一例が、相馬御風先生の功績の紹介です。御風先生は、昭和3年、昭和7年の糸魚川大火で、自らの財産を失う中、人々を救済し、復興にご尽力されました。その功績を紹介することが、大火からの復興になる施設となります。ぜひそのようにしてはいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

相馬御風先生を顕彰する施設につきましては、相馬御風宅や糸魚川歴史民俗資料館等があります。それら施設への誘導は、必要と考えております。

今後、様々な要望や関係団体からのご意見を参考にして、施設の内容は検討されていくものと理解しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

災害復興施設の例として、岩手県遠野市の図書館「こども本の森」をご紹介します。

資料を事前に課長にお渡ししてあります。

その概要をご紹介しますと、こども本の森は、東日本大震災からの復興支援のため、有名な建築家、安藤忠雄さんが設計を手がけ、寄贈した施設で、地区120年の商家を改築した木造2階、延床面積498平米、遠野市が運営します。

図書は、遠野と東北、世界を見渡すなど、13のテーマ別に分類され、図書の貸出しはしてません。児童書や絵本を中心に、1万3,000冊の蔵書をそろえ、子供たちは、素晴らしい施設をありがとう、リラックスして本を楽しめそうとの言葉を述べたそうです。

読書スペースと別に飲食ができるスペースもあるとのこと。大火後の糸魚川文化の復興と情報発信に役立つものとして、よいところはまねてみませんか、担当課長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苺生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苺 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苺 真君）

お答えいたします。

この施設については、従来からの図書館というのは、違った発想で造られたというふうに考えております。先ほどもお答えいたしましたとおり、在り方については、来年度から検討させていただくということになっておりますが、現行の図書館でも、まねができるところ、参考になるところについては、取り入れていきたいというふうに考えております。特に展示方法や本の分類の方法とかというのは、すぐにでもできるのかなというふうに思っておりますので、研究した上で検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

さらに紹介を続けます。

遠野市のホームページには、とおの物語が、今なお息づいている遠野市。こども本の森を通して、さらに文化を発信するため、市民や全国各地の方から寄附・寄贈のご協力をお願いしています。

次代を担う子供たちのため、みんなで本の森を育てていきませんか。運営費の寄附をふるさと納税でも受け付けていますとあります。こういった取組について、よいところは、まねてみませんか。担当課長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

穂苅生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 穂苅 真君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（穂苅 真君）

お答えいたします。

運営費の寄附や本の寄附を受けているということですが、当市においても、本の寄附に、寄贈については、今も頂いております。この辺なかなか周知のほうが行き届かず、皆さんにご紹介することができておりませんが、この辺については、また周知の方法も含めて検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ふるさと納税の活用ということですね。こういう時代になったんですね。担当課長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺企画定住課長。〔企画定住課長 渡辺孝志君登壇〕

○企画定住課長（渡辺孝志君）

お答えします。

確かに施設を建てるということになると、財源の問題という形になります。それぞれ担当課長のほうから、国や県の交付金という話もございましたけども、それだけでは十分に賄うことができません。ふるさと納税も、今、糸魚川市のほうでも最初から比べまして、伸びのほうもございます。こういった財源をしっかりとPRする中で、財源を集めていく。こういった取組は、大事だというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

この質問の最後に、市が考える公民連携（PPP）の方向性について、伺いたいと思います。

PFIとなれば、民間事業者が主体となるわけですが、商工会議所や市内外の事業者さんから、その辺りについての聞き取りはできましたか。何か提案があったとも聞いていますが、どんな内容ですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

公民連携に向けまして、今現在、市外の事業者から前段の聞き取り調査を行っておるとい、先ほど答弁をいたしました。

ただ、今ほどご質問の会議所ですとか地元の事業者ということなんですが、やはり市の実情に詳しい会議所さんですとか、市内の事業者からの聞き取りも、当然必要であると思っております。

逆に、市内の事業者じゃなければできなかったということもあるかもしれませんので、その辺は今後やっていく必要があると思っております。

また、この後、糸魚川商工会議所さんのほうから、市と連携いたしまして、にぎわいづくりに向けて取り込むべく、提案があるというふう聞いております。まだ頂いていないんですが、この後、会議所のほうからの提案を承る予定にしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そういった提案があった場合に、議会に早く示していただきたいんですけど、その点いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

地域の皆さん、市民の皆さんからご要望いただいたのと同じように、議会のほうにも市民のほうにも示してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、質問の1に戻りまして、よろしくお願ひいたします。

新駅押上駅、糸魚川駅周辺整備と鉄道を生かした広域連携について、2回目の質問です。

えちご押上ひすい海岸駅開業前より検討されていた地元住民と連携したまちづくりは進んでいますか。地元押上区は、そのために駅に接して、200坪の土地を準備しました。ほかにもいろいろありますが、今後の取組について詳細を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

押上区の皆様とは、開業後も意見交換というものを継続しております。これまでの取組といたしましては、地元には、おしあげいしっころ倶楽部という組織がございます。押上の浜ですとか川で取れる石の活用PRに取り組む有志の団体でございます。

公会堂での石の紹介ですとか、ヒスイ海岸でのPRということをやっていたり、新駅にしましては、待合室で薬石の展示というものを行っていただいております。展示物の設置ですとか管理は、地域が担当いたしまして、鉄道会社とのやり取りですとか手続というところを市のほうが受け持つというような連携をしております。

また、区が取得された土地に関しましては、周辺の道路整備ですとか関連施設、あとヒスイ海岸への案内など、様々なご要望をいただいております。これらに関しましても、駅のご利用状況の把握というのは当然必要なんです。所有者であります区の意向というものもしっかり聞きながら、市長答弁にありますように、地域の皆様と一緒に検討を加えてまいりたいというふうには思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

区の要望を聴いていると、何年間も聴いてきましたね。それで、区は区で立派な計画をつくって、行政をお願いするところはお願いしたいとやってきたわけです。

そういった中で、この1年間、何が続くのかなと、進んだのかなと思うところなんです。区としても、駅を活用したまちづくりのために、鉄道で皆さんおいでいただくような、そこに協力していきたいということなんです。けれども市のほうは、そういった動き、取ってますか。具体的なものが見えてないんで、私、今回質問させていただきました。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

区の皆様からお声を頂いて、今、駅の南側で市道の改良工事というものも、現に今も進めておる

状況でございます。同じように、下り線側にいろいろ待合室ですとかの要望も頂いておりますので、あと市道の南線という水路のある通りなんです、その幅の可能性についても、道路管理者である県ですとか、交通管理者である警察のほうとは、事前に踏切に近いものですから、その可否ですとか条件みたいな、そういう作業は進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

通勤・通学利用者の利便性について伺います。

冬、下り上越方面のホームで待つ高校生や利用者の様子を知っていますか。待合室の設置は、いつになりますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

お客様のご利用状況といったものは、乗降調査の機会ですとか様々な機会を通じて、見たり、聞いたりしております。現在、直江津方面から鉄道を利用して、糸魚川高校へ通学している生徒さん約70名いらっしゃいますが、特に帰りの時間帯、高校生の様子なんです、防風壁のあるホームの上で待つ学生さんですとか、上り線側に設置してある待合室で、時間を潰してから電車来る前に下り線側のほうに移って、向かう学生など、いろんな利用状況が見受けられますが、確かに冬は、ちょっと寒そうかなというのは見てとれます。

あと待合室の整備につきましては、関連施設ですとか周辺道路の拡幅、あとヒスイ海岸の活用計画など、地域のまちづくりの計画の中の一つと位置づけまして、検討してまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

以前より、課長と話をしてきた高校と連携したまちづくりは進んでいますか。そもそも何を課題とするのか、高校生はどう関わるか、確認させてください。

また、えちごトキめき鉄道リゾート列車、雪月花設計者、川西先生に講師をお願いする件は、どうなりましたか、確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

糸魚川高校ですが、連携につきましては、コロナ禍ということもありまして、ちょっと正直、日程を確保しづらい状況でございます。

ただ、地域の目指す新駅開業を契機とした元気な地域になるという押上の目標、そのまちづくりに進めるためには、高校生という若い世代の視点、アイデアは、逆に問題点、課題把握ということが必要であるかと思っております。高校生からは、ぜひ当事者意識を持って、自発的に参加していただくということも重要かと思っております。

昨年の10月、コロナ禍の合間を縫った形で、イチバンセンの川西先生とお話いたしました。今ほど私、お話ししたことも、川西先生のほうからアドバイスを頂いたものでございます。高校生の連携におきましては、ぜひ川西先生のお力も借りながら、今後も進めてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

高校生たちが検討する課題として、当事者意識を持つというところで、いい例があるじゃないですか。この待合室をどうするか。それから、駅を活用した地域づくり、これを高校生と一緒に進めたらどうですか。地元のこととして捉えてもらえるし、自分の仲間が上越行きのホームで寒くて凍えてるのをどうするか、そういったことを一緒に考えたらいかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

地域が元気になるために、高校生の目線という先ほどの答弁と繰り返しになりますが、ぜひ一個一個の駅を、駐輪場をどうするか、待合室をどうするかという具体的な課題というものを与えるということもいいんじゃないかという話もありますので、その辺は、実際にまだ高校生と、じかにしゃべれていないんですが、高校生の中には、新駅の開業のときからの広報の担当の方が、えちごトキめき鉄道の社長とかにインタビューをしたり、かなりそういう意識が高い素地がございますので、その辺は、今後じかに高校生と会って、彼らの反応というのを感じてみたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ぜひ進めていただきたいと思います。

では、次ですけれども、今後の鉄道需要の掘り起こしに、糸魚川が鉄道ファンの目的地となり、必ず行かなければいけない巡礼地となること、その戦略を考えるのは誰か。それは鉄道ファンの気持ちを知っている人です。その人を訪ねて、いろんな人が全国から来ています。鉄道ジオラマをお世話いただいている方に、よくお話を聞いて、予算をつけて実践してください。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるように糸魚川駅のジオパルを中心に、鉄道の資産が集約されております。また、周辺にも数々の鉄道の見どころが存在しておりますので、市として、これらを生かした取組を進めまして、鉄道ファンを中心とした誘客につなげていきたいというふうに考えております。

また、取組の検討に当たりましては、鉄道のことについて詳しいジオパルのスタッフの皆さんのご意見も大変重要であると思っておりますので、それらも踏まえる中で、取組について考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

最後、取り組みたいとおっしゃったのか、何とおっしゃったのか、もう一回お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパルのスタッフの皆さんのご意見もお聞きする中で、取組を進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、次になります。新津、直江津、糸魚川が連携する鉄道観光については、3都市には、既に鉄道ファンを呼び込むインフラは整備されていますので、それをつないで観光として生かすことです。それが、糸魚川が鉄道ファンの目的地となり、必ず行かなければならない巡礼地となり、後は、プラタモリから学んだように、分かりやすく面白い情報発信を工夫して、鉄道ファンのみならず、いろんな方が3都市を鉄道で巡る旅をしてくれるように進めましょう。

まず、鉄道イベントを糸魚川から提案し、進めていきましょう。新津、直江津、糸魚川、それぞれのまちには、鉄道を生かして、まちづくりをしていこうという思いを持つ人が、少なからずいます。まずはイベントで連携し、持続する活動へと結びつけていく。それが、やがて大糸線の新しい活用と存続にもつながると私は思います。

市長、今こそ私たちが先頭に立って、汗をかきませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にジオパルに対しましては、多くの皆様方から親しんでいただいていることに関しましては、感謝いたす次第であります。

しかし、非常にこのコロナ禍で数が減少しているのも、少し危惧しとるところでございます。そして、昨日の和泉議員のご質問にもありましたように、ジオパルは今、1つの資料がたくさん頂いたりお借りしておる状況でございます。1つは、それをどうやってまた、していくかというところにあるわけでございます。田原議員のご指摘の点を含めまして、やはりそれをどのように魅力あるものにしていくかというのが今、課題かと思っております。それをやはり中心に考えていくことによりまして、さらに魅力あるものになればと思っております。

それと、併せて関係する駅と連携を取っていければ、非常に有効になっていくんだろうと思っておりますので、そういった流れの中で進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

では、質問2、「翠（みどり）の交流都市」糸魚川市の様々な都市交流事業の現状と課題について、2回目の質問です。

塩尻市との都市交流事業の現状と課題について、関係する課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

塩尻市との観光交流につきましては、現在、糸魚川市都市交流協会が中心となりまして、市民号の運行ですとか、また各種団体における交流が進められているところでございます。以前から経済交流としましては、商工会議所による塩の道経済懇談会等の交流はありましたが、あまり進んでいない状況でございました。

しかしながら、現在、姉妹都市のご縁によりまして、塩尻市振興公社とテレワーク事業での連携が行われているところでありまして、今後とも進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

コロナ禍の影響で、塩尻市との交流も形を変えざるを得ない、変えていかざるを得ないという状

況ですが、リモートによる交流とリアルな交流をどうしたよいか。これまでは、バスを仕立てて塩尻市の観光をし、ブドウ園で市長が挨拶して、ジンギスカンとワインを頂き、ブドウとワインを土産に買って来るといったコースをリモートとリアルに置き換えて、参加者が喜び、かつそれぞれの都市で経済効果を生む仕組みづくりが急がれます。塩尻市とも連携しなければいけません、糸魚川市の取組について、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

塩尻市との交流の中で、例年市民号を行ってのわけなんですけども、おっしゃるとおり非常に人気がありまして、参加者が多い状況でございますけれども、コロナ禍のためにリアルな交流ができない状況になっております。このようなことも踏まえまして、昨年度から物販交流をスタートしたところでございます。

また、今後につきましては、会員の皆さんのご意見も踏まえる中で、また、先方のお話もお聞きする中で、物販交流の拡大ですとか、またオンライン交流の在り方についても、また新たな交流方法として模索していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

塩尻市との交流を糸魚川市の産業振興にも活用すべきではないかという観点で質問します。

エプソンとつながる塩尻市のインキュベーション事業に学び、先端のノウハウを糸魚川市のものとする取組が欲しいです。この機会に塩尻市のインキュベーション事業の概要を説明いただき、私の提言への答弁をください。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

塩尻市のインキュベーション事業の概要ということでございますので、塩尻インキュベーションプラザの概要について、お話しさせていただきたいというふうに思っております。

塩尻市では、情報関連技術の分野におきまして、専門的な知識ですとか、経験を有する企業及び大学等と連携し、企業支援及び人材育成を行う環境を整備することによる地域経済の活性化を目的として、塩尻インキュベーションプラザを平成19年に設置しております。具体的には、インキュベーションオフィスの提供と専門スタッフの配置によるサポート、各種イベント、セミナー等の開催など、企業の皆様の多種多様な課題につきまして、ワンストップ窓口として産学官連携で、適切なコーディネートが実施されているというふうにお聞きしております。

先端のこのノウハウを当市にというご提言につきましては、塩尻市の例につきましては、古くからICT分野の産業集積がありまして、また、生活圏に大学があるという中での産学官の連携の取

組でありますけども、当市における産官学の連携の推進に当たりまして、塩尻のモデルもぜひ参考にして取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

そのように進めてください。お願いします。

次、カチューシャの唄をご縁とする知音都市との交流事業の現状と課題について、関係する課に伺います。

先ほどの塩尻市との交流と同じように、リモートとリアルに置き換えて、参加者が喜び、かつそれぞれの都市で経済効果を生む仕組みづくりが求められていると思います。糸魚川市の取組について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

カチューシャの唄を通じました知音都市交流につきましては、市民団体レベルの交流が中心であるというふうに思っております。大変結びつきが強い交流だというふうに考えておまして、課題といたしましては、遠距離の都市もありますことから、リアルな交流を行うには負担が大きいというところが課題であるかなというふうに考えております。

しかしながら、知音都市交流では、以前から顔なじみの方が多いというふうに聞いておりますので、例えばそれらの各都市の特産品を購入しまして、味わいながら親交を深めるなどのオンラインを活用した交流も有効であるというふうにも考えております。

いずれにいたしましても、団体の皆さんのお考えをお聞きする中で、新たな交流の在り方について検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

カチューシャの唄をご縁とする知音都市交流は、相馬御風先生の恩師、島村抱月先生の出身地である島根県浜田市旧金城町からの提案により始まり、今年34年目、来年で35周年を迎えますが、私がこの交流で学んだことは、金城の皆さんの地域づくりへの熱意と情報の発信力でした。福祉施策の先進地であり、郷土芸能石見神楽の継承もすばらしい。この知音都市交流のよいご縁を、それぞれのまちの未来の子供たちにもと願うものです。

磯野教育次長は、長く知音都市交流でご活躍いただき、金城の地域づくりグループに招かれ、町一番の会場で演奏されました。また、早稲田大学のグリークラブのステージで、校歌「都の西北」の作詞者、相馬御風先生と糸魚川を紹介していただきました。

そこで、この機会に知音都市交流の意義について、お話を頂きたいですし、交流各都市の友人へ

の熱いメッセージがあれば、ぜひ伺いたい。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 茂君登壇〕

○教育次長（磯野 茂君）

議員からご紹介いただきましたとおりでございます。平成の初め頃だったと思いますけれども、旧金城町からの呼びかけによりまして、交流が動き出したと記憶しております。ちょうどその頃、私は総務課に配属になっておりまして、この交流を担当した記憶がございます。それ以来の関わりということになりますし、個人的なつながりは、今も続いているというところでございます。

交流の開始から、ご紹介のありましたとおり30年以上経過し、関係する職員、市民も含めましてですけれども、そういった人たちも代わり、またコロナ禍もあって交流のありようというものも変化しているというふうに思っておりますけれども、日本の流行歌第1号と言われるほど、大正初期に大ヒットした「カチューシャの唄」が歌い継がれていくこと、また、4都市の交流が継続することが、ひいては相馬御風の顕彰につながるものというふうに私としては、考えております。

それぞれ交流都市の皆さんへのメッセージということでは、特に今すぐには言葉が出てまいりませぬけれども、大変当時関わった皆さんからお世話になりましたし、今後も共に交流を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

訪れた人が、その地域のすばらしさを口にすることで、その地域の人が自信を持つ。それがまた、子供にも伝わっていくという、いい関係ができたんじゃないかなと思います。ぜひとも、これからもこの交流を続けていきたいということを申し上げたいと思います。

では、質問の3、「ブラタモリ」から学ぶ、糸魚川の魅力の伝え方と生かし方、2回目の質問です。

「ブラタモリ」の熱を保つように、このパネルを市内の随所に掲示して、3回目放映のための活動をしていこうという市長メッセージを添えていただければと思いますが、市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

糸魚川には、今回、「ブラタモリ」で取り上げられなかった資源や素材がたくさんあります。NHKから企画等の問合せがあれば、全力でお手伝いしたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足して、お答えさせていただきます。

「ブラタモリ」、非常に關心とかがございまして、反響に私は非常に驚いております。市外のみならず、市民の皆様方が、やはり一番反響が大きかったかと思っております。そういったこの機会を生かして、この糸魚川の魅力というものを発信してきたわけであります。

しかしながら、今お示しいただきました「ブラタモリ」のポスターというのは、5枚限定という形になっておりまして、それをどうやって生かしていくか、それをやはりNHKとしては、5枚しか出さないという厳しいお達しでございますので、それを生かしながら、「ブラタモリ」の拡大をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

徳合にお住まいの方から、資料が届きました。一部紹介させていただきますと、「ブラタモリ」で糸魚川のこと2回にわたり放映され、うれしかった。解説者がミュージアム館長の竹之内さんで、実に分かりやすく、人柄の温かさを感じた。録画を何度も見返し、タモリさんの知識の豊富さとアシスタントアナの浅野さんのフォローがすばらしく、感動した。竹之内館長とはいかなくとも、自分でも伝えてみたいと思ひ、資料を作ったということです。

「ブラタモリ」が、市民の熱い学習意欲を呼び起こしたものと捉えています。こういった思いを市民みんなで共有し、広めていきませんか。教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

「ブラタモリ」の放映を見られた市民の方が感動し、胸を熱くされてパンフレットを作られた。そのことをお伝えいただきまして、ありがとうございます。市民の皆さんの反響等も、随分、私ども多く聞いております。

3月中には、博物館の竹之内館長さんが、市民のいろんな団体の人たちから「ブラタモリ」放映に絡む、関係する話をぜひ聞きたいというふうなニーズが、結構来ております。そんな意味合いからしても、今回の放映のインパクト、非常に大きなものがあつたというふうに私も確認しております。

私の立場から言いますという、教育委員会の子供たちへのジオパーク学習、あれをもうちょっと充実する意味で、ちょっと見直しながら、新たな視点で放映を受けた形で何を学んだのかということ整理して、多に子供たちも発信していきたいというふうに思っています。

それから、生涯学習課の観点では、公民館で行われる市民対象の講座、いろんな講座がありますけれども、そんなふうな講座の内容にも、ニーズに応じながら対応できるように、そんなふうな準備も進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

十分なご答弁頂いたと思います。

そこで、「ブラタモリ」で紹介された、通称、諏訪解説を活用できないかという私からの提言になるのですが、これは糸魚川市で考えた定説をタモリさんが諏訪解説として説明されたということなのか。諏訪解説の内容と併せて、そのいきさつを説明いただけませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

諏訪解説とされているものにつきましては、フォッサマグナについて、タモリさんが持ち合わせてる知識の中で解説されたものでありまして、その内容につきましては、地質学などの研究者に多く支持されている学説とされてるものであります。糸魚川が、考えたものではありません。フォッサマグナミュージアムでは、その学説に沿った展示や解説を行っております。

あと、放送された諏訪解説ですけれども、全文を紹介しますと、「日本列島が大陸から分かれるときに、ぐわっと真っ二つに割れて、ここに来たんです。大きな溝ができて、そこに大量に土砂だとか火山の噴出土がたまっていますけれども、西側の端がここに来ているの。」です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

課長、ありがとうございました。

私が、さすがはNHKと思ったのは、「ブラタモリ」の中で、フォッサマグナや糸魚川・静岡構造線など、面白く分かりやすく伝える工夫でした。タモリさんが、諏訪で見事な解説をしたというエピソードの出し方もよかったし、身振り手振りで伝える工夫が良かったです。諏訪解説と親不知と塩の道の解説を、これからのふるさと教育の基礎として、市民の皆さんと共有したいと願います。今後の取組に期待するものですが、いかがでしょうか、もう一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

「ブラタモリ」の放送の効果は、テレビを見た方が、糸魚川のすばらしさを分かっていた部分だというふうに思っております。フォッサマグナや糸魚川・静岡構造線、親不知、塩の道など、糸魚川のすばらしい資源を、広く分かりやすく今後も伝えていきたいというふうに思っております。

本日のタイムスさんの記事にも、アフターブラタモリという特集がされました。竹之内館長も、

タモリさんの語りや身振り手振りについて、非常にすばらしかったというふうに記載されております。

また、3月12日にフォッサマグナミュージアムにおいて、竹之内館長によるジオパーク講座、「フォッサマグナの魅力を日本中に広げよう～ブラタモリを振り返って～」という講座が開催されますので、ぜひ多くの皆様からご参加いただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

ブラタモリツアーについては、今どのようなことを検討してあるか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

「ブラタモリ」で放送されたコースにつきましては、大変糸魚川の魅力ですとか、すごさが分かる場所です。これらを基本といたしまして、来ていただいた方が、それと関連づけて、食やお酒を楽しむことができたり、また、紹介された以外の場所につきましても、関連づけて紹介することにより、また、リピートしてもらって、繰り返し糸魚川においでいただけるようなツアーになればいいということで、まだ詳細はこれからですが、観光協会と内容につきましては、議論をしてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

市民からの意見ですが、タクシー貸切りが効率がよく、しかも「ブラタモリ」撮影地で、タモリさんと同じポーズで写真を撮ってもらえるサービス付きのツアーが喜ばれるだろう。それで皆さんの笑顔がSNSで広がり、リピーターが増えれば、市がタクシー代の一部を補助してもよろしいのではないかといいものですが、いかがですか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おいでになった皆さんから楽しんでいただきまして、またそれを、自ら情報発信していただくということは非常に大事なことだと思っておりますので、それらも参考にさせていただきながら考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

さて、3回目の「ブラタモリ糸魚川編」のコンテンツには、地質・地形と併せて、鉄道と相馬御風先生を糸魚川ならではの歴史・文化として取り上げてほしいと熱望いたしますが、いかがですか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

「ブラタモリ」の担当ディレクターの方には、糸魚川の素材の多さについて伝えてございます。NHKの「ブラタモリ」のスタッフが、興味を持たれるかどうかだというふうに思っておりますが、私も鉄道と相馬御風先生を取り上げていただければというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

本日の質問の最後に、提言をいたします。

私なりに考えてみました。鉄道と「ブラタモリ」です。「ブラタモリ」専用でリゾート列車雪月花を貸切りで県内を走らせて、番組を1つ作るというアイデアです。

雪月花の中では、設計者の川西先生から解説をいただきながら、筒石駅、能生海岸や能生谷の地質・地形を紹介する。市振駅と芭蕉の句を紹介する。さらに糸魚川からは、そのまま雪月花で大糸線を使って、白馬あるいは大町まで行く。私の素人考えではありますが、雪月花をお召し列車に見立てての特別な旅は、タモリさんもきっと喜ばれると思います。

さらに私の考えを申し上げれば、これは「ブラタモリ」ではなくとも、存続の危機にある地方鉄道に「ブラタモリ」を好んで見ている層の人たちを呼び込む番組の第1回目となるのではないかと。もしそれができれば、タモリさんから糸魚川すごいなど、また言ってもらえると私は思います。ぜひとも放送局に対して、えちごトキめき鉄道、新潟県沿線関係市と一緒に働きかけてはいかがでしょうか。

ここは、鉄道がお好きと伺っています。井川副市長からお答えいただけませんか。お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

副市長の立場ということでお答えさせていただきます。

えちごトキめき鉄道につきましては、コロナ禍によって通常の利用が低迷しているという状況でございます。こういった中で、雪月花をはじめとする観光列車の利用というのは、非常に大事なことでというふうに私も思っています。これまでも、えちごトキめき鉄道においては、今年やるんですけども、新潟県民限定のカフェ雪月花ですとか、市と連携して大糸線の乗り入れなどを実施してきました。こういったいろんな事業を実践している実績がございます。

今ほど田原議員の提案については、テレビ局との連携という、少しハードルは高いなと感じる部分もありますけども、興味深い提案でもありますので、まずはえちごトキめき鉄道と意見交換をさせていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

「ブラタモリ」があって、糸魚川は今まさに画期ではないかと私は思います。

画期とは、画期的ということで用いられる画期ですが、意味は、これまでになかったことをして、その分野で新しい時代として区切られること、またその区切りということです。

未来への新しい歩みを始めるきっかけとしたい。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

コロナ禍で非常に全てのものが動きが止まっておる状況の中において、やはり今までと違った観点から脚光を浴びさせることが大事になってこようかと思えます。そういう中においては、糸魚川市、いろいろこの資源を持っておりますので、ご指摘の鉄道の魅力というのも大きな一つだと思っておりますので、そういったところを大きな連携の中で、いろんな人たちのお力を頂く中で、イベントとして取り組んでいきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原議員。

○18番（田原 実君）

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

ここで説明員入替えのため、暫時休憩いたします。再開を11時半といたします。

〈午前11時21分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、利根川 正議員。